



▲「昨日が誕生日の家の内や、両親の目の前で優勝したかったけど、コロナの状況では仕方ない」と笹田



グリコセブンティーンアイス杯 第8回プロアマボウリングトーナメント

5月22～23日 / 富山地铁ゴールデンボウル

男子・笹田泰裕、女子・三浦美里が タイトルホルダーの仲間入り

グリコセブンティーンアイス杯・第8回プロアマボウリングトーナメントは、いまだ収束の見えないコロナ禍で昨年に続き開催が危ぶまれたが、無観客で実施された。今年の初戦となった男子は、笹田泰裕(52期・伊賀にんにんボウル)が9年目の初優勝を飾れば、女子もデビュー8年目の三浦美里(47期・フリー)が初タイトルを獲得した。(主催:(公社)日本プロボウリング協会 特別協賛:江崎グリコ株式会社/(公社)日本ボウリング場協会)

もストライクがつながらない。二人が足踏みをする間に、4フレから気迫のフォースで抜け出した笹田が、初タイトルのゴールに飛び込んだ。

の②⑧カバーミスなどでもたつく間に、久保田が7フレからオールウェーを決めて優勝決定戦に勝ち上がった。

大嶋の1投目は、ジャストポケットも無情の⑨タップ。栄冠は三浦の頭上に輝いた。

1位残り的大嶋と三浦に、勝ち上がりの久保田を加えた優勝決定戦は、三浦が1フレからダブル、3フレのスペアをはさんで4フレからフォースで初タイトルへまっしぐらと思われたが、続く8フレは「ちょっと外ミスだったけど、割れてびっくり」とアンラッキーな⑦⑩スプリット。追いかける大嶋も8フレはワッシャーのピンチだったが、ナイスカバーで1マーク余りの差で追走。9フレをともにストライクのと、先投げの三浦は優勝を意識してか「力が入った」と②④⑤⑦⑧を残す5本カウント。これをスペアならず213でフィニッシュ。ダブルればほぼ勝ちの



▲「優勝決定戦は、私がいちばん合っていないなと思ったけど、ボールを替えるイメージもわからなかった」と久保田

永野の連勝記録は?

男女それぞれ A、Bシフトに分かれ予選(8G)、準決勝(6G)を投球、各シフト上位4名ずつを決勝に進出した。

男子の Aシフトは1位の笹田をはじめ、アマの高平雄生選手、平井翔、山本勲の4名、Bシフトは1位の永野すばるをはじめ、佐藤昌徳、和田秀和、山下昌吾の4名が決勝に進んだ。

各シフト3、4位の4名によるシュートアウト1stマッチは、8フレからのオールウェーなどで247と伸ばした山下が勝ち上がった。



▶「消化不良で終わってしまいましたが、この半年連勝のプレッシャーと闘ってきたので、次からもうひとつ自分のボウリングができると思える」と永野

10フレにドラマ

女子の Aシフトからは、1位の三浦をはじめ、坂倉凜、久保田彩花、霜出佳奈の4名、Bシフトからは、1位の大嶋有香をはじめ、坂本かや、水谷若菜、板倉奈智美の4名が決勝にコマを進めた。

シュートアウト1stマッチは、一進一退の展開で終盤までもつれたが、久保田が7フレからのターキーで混戦を制した。

シュートアウト2ndマッチは、坂本が4フレからのフォースでリードを奪ったが、8フレ

各シフトの2位と山下によるシュートアウト2ndマッチは、壮絶なストライク合戦となったが、ターキースタートの山下が、4フレのスペアをはさんで5フレから6連発を決め、266で打ち合いを制した。

各シフト1位と山下による優勝決定戦は、昨年3連勝中の永野が、2フレ③④⑥⑦のスプリットでオープン、3フレも同じスプリットはナイスカバーで切り抜けたが、5フレは⑩ピンをカバーミスと前半で大きく出遅れた。ダブルスタートの山下は、3フレ④⑦⑩と割れてオープンでつまずくと、その後



▲「腰が痛くて出場するかどうかわざった。その割にはいいイメージで投げられた」と大嶋



▶「いろいろな部分で自分の技術、準備不足です。でも今できる対処は全部やったので悔いはない」と山下



▲男子ベストアマの高平雄生選手(総合4位)と女子ベストアマの常木育美選手(同22位)

優勝者コメント



男子・笹田泰裕

決勝の練習ボール残り2分ぐらいいで、手前のオイルが完全に枯れていると気づき、ドライエリアを飛ばして投げてみた。奥でいいリアクションしてくれた。ラインがはっきり見えたので、絶対にチャンスがあると思った。2年前のラウンドワンカップJPBA決勝大会で準優勝、そのときに初優勝を逃した。次はいつチャンスがくるんだろうと思っていたら、思いがけず早くきた。今回の方が、チャンスがあった分、緊張して胃が痛くなった。(優勝ボール: ストーム社フィジックス)



女子・三浦美里

決勝の10フレは、点差を気にして力が入ってしまった。大嶋さんが投げた瞬間、感じのいい投球だったので負けを覚悟した。それが⑨タップになって優勝が決まり、何が私を勝たせてくれたのかなと思った。最近はいろんな人に「もうそろそろだよな」と言われることが多くなって、優勝を強く意識するようになっていたので、できてよかった。でも最後をミスで終わらせたので、今はうれしさよりも悔しさの方が大きい。(優勝ボール: ストーム社フィジックス)

